

## 新年を迎えて ～節目の役目～

新しい年、2021年を迎えました。今年の干支は「丑（うし）」、動物では牛です。牛はのんびりしているように見えますが、人の生活の土台である農業をしっかりと手伝ってくれることから、「粘り強さ」や「堅実さ」、「誠実さ」などを表す縁起のいい動物だそうです。この年が変わるといふのを機会に、前の年を振り返ってみたり、新しい年に向けての決意や抱負を考えたりした人も多いのではないのでしょうか。

さて、今日は3学期の始業式です。今学期は学年のしめくくりの学期であり、次の学年につながります。特に3年生はいよいよ中学校生活最後の学期ですね。そのように大切な学期なのですが、一年間の三つの学期の中では最も短く、3学期の授業日数は、1・2年生は52日、3年生は46日しかありません。

学校生活では、このように入学式や卒業式、それぞれの学期の始業式・終業式など学年をいくつかの期間に区切る「節目」があります。それぞれの節目ごとに、それまでの期間の自分自身を振り返り、良かったことや不十分だったことを確認する。そして、次の節目までにどんなことをしたいのか、どんな目標を達成したいのか思い描く。そうした「節目」を大切にすることが、自分を成長させることにつながります。



引き続き感染防止対策を

### 竹の「節」の役割

植物の中にも「節目」をもっている植物があります。それは「竹」です。竹は、1日に1メートル以上も伸びることもある、とても成長の早い植物です。実は内部が空洞になっていて、ところどころに規則的に節があります。大きなものでは高さ20メートルを超える場合もあり、ただ上へ上へと伸びたのでは、自分自身を支えきれなくなってしまうのです。そこで、自分を支えるために「節」があるのです。強い風が吹くと、大きく揺れますが、節があるために折れることはありません。雪の多い地域では、積もった雪の重みで大きく曲がることはあっても耐え抜き、やがてその重みを跳ね返します。このような「しなやかさ」と「強さ」を兼ね備えているのも、「節」があるからです。何と戦争中には、金属不足を補うために、竹を鉄筋の代わりに使っていたことがあるそうです。



久司山の見事な竹林



3年生はいよいよ本格的に入試シーズン突入です。また、1・2年生は行事やテストが多く、部活動なども基礎練習や単調な練習が続く時期です。このようなしんどいことや地道で単調なことをしっかりとやっていくことが大きな「節」となり、苦しさに負けない「しなやかさ」や「強さ」、自分の成長につながります。「節目だから、必ず伸びる」と思って、「一つの節を増やす」つもりで笑って乗り越えていきましょう。なお、1本1本の竹どうしは、地面の下では地下茎でつながっています。仲間と力を合わせ、つながりをもちながら成長しているのですね。

